

## テーマ

台湾人の友達に手紙をかこう

## 目標

学習者レベル（初級）  
 中国語で自分のことを紹介できる。相手について尋ね、返事がもらえるような文章が書ける。  
 返信の内容を理解することができる。

## コミュニケーション能力指標

手紙をかくことができる。またその返事を読むことができる。  
 自分の家族、趣味等を文章で紹介することができる。  
 活字ではない手書きの文章をよむことができる。

## 学習シナリオ

## &lt;場面状況&gt;

台湾明新科技大学工学部では、36名のベトナム人一年生が中国語のライティングクラスを学んでいる。ほぼ全員が来台1か月未満のため、初級からのスタートである。一年生は週10時間程度、ほぼ毎日初級中国語クラスがある。専攻は全員工学であるが、専門についてのライティングは難しすぎるので、身近な生活に密着した、手紙を書いて返信をもらい、それを読むという課題に取り組むことにした。またこの活動を通して台湾人の友達を作り、学習動機を高めることを目標とする。

## &lt;活動の流れ&gt;

活動に入る前に、A Course in Contemporary Chinese（台湾で最も広く使われている教科書）第2課の“my family”を復習する。

第1回は授業に入る前に、中国語で手紙をかいたことがあるか、台湾人の友達が欲しいかどうか尋ねる。また、手書きの中国語は活字に比べて読解しやすいかどうかについて尋ねる。次に普段友人との連絡はSNSが多いが手書きで中国語で手紙をかくことの意義と、その評価方法について説明した。住所や宛名の書き方を学び、下書きをする。

第2回は前回書いた内容を清書する。また相手に質問したり、カラーペンを用意し、イラストを添えて返事をもらいやすくする工夫をしてもいいことを伝える。学習者は清書した内容を封筒に入れ、教師は授業後後それを台湾人学生（中国語ネイティブ）に渡し、返事を書いてもらう。

第3回は相手からの返事を待つため、別の授業内容を行う。

第4回は返事を読解する。何が書いてあるか知るためスマートホンで単語の意味を調べる。それでもわからないものに関してはクラスメートや先生、TA(ティーチングアシスタント)に聞いたりする（普段活字の繁体中国語を目にする機会はあるが、手書きの中国語に苦戦する学生が多かった）。再度相手に返事を書きたいという要望が多く、授業の後半を返事を書く時間にあてる。

第5回はお互いに実際会ってみたいという要望が多く、双方を同じ教室に集めて引き合わせ、手紙をかいた人（ベトナム人学生）と返事を書いた人（台湾人学生）をペアにし、簡単なタスクを与えて協力してペアで解決させる（ベトナム人学生は三分間にさんずいの漢字をいくつかけるか、台湾人学生はそれを手伝う）

## 総括的評価

清書した手紙、中間テスト（手紙をかく際に使用する単語、住所の書き方）